

小笠原諸島の国有林野(第4回)

小笠原諸島森林生態系保護地域

小笠原諸島森林生態系保全センター



世界遺産ロゴマーク

小笠原諸島世界自然遺産を後世に残すために

小笠原諸島は、昨年6月に世界自然遺産に登録されて以降、観光客等の来島者が、確実に増加しています。おがさわら丸の乗船客数(表1)について、平成21年度以降を月別に比較すると、夏期の増加は僅かですが、9月から12月までをみると、23年度は、21・22年度の同時期に比べ、

増加し、6月から12月までの総数は、約5割増しの状況となっています。また、森林生態系保護地域内の指定ルートの利用者数は、21・22年度に対し、世界自然遺産に推薦されて以降、増えており、23年6月から12月までの総数(表2)は、約8割増しの状況となっています。特に、父島では、東平にあるアカシラカラスバトサンクチュアリ、

表1

おがさわら丸の乗船客数(平成23年6~12月) (単位:人)

区分	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
21年度	953	2,239	3,141	1,069	868	380	1,088	9,738
22年度	1,118	1,787	3,055	1,477	888	332	833	9,490
23年度	1,238	2,268	3,590	2,485	1,626	1,368	1,732	14,307

注:上記数字は、観光(観光、釣り、ダイビング、その他)

表2

指定ルート等の利用状況(平成23年6~12月) (単位:人)

区分	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
21年度	862	965	1,532	830	756	952	1,167	7,064
22年度	978	971	1,532	853	898	738	1,227	7,197
23年度	1,244	1,589	2,641	1,593	1,850	1,957	1,821	12,695

注:指定ルートとは、森林生態系保護地域に生息・生育する貴重な動植物の保護と観光などによる利用の調整を図るため、立ち入り可能なルート指定したものです。

島南部、千尋岩への指定ルートの利用者が多くなっています。母島では、石門へのルートが人気ですが、体力等を考慮して、比較的利用しやすい、乳房山、南崎の遊歩道の利用者が多いようです。乳房山遊歩道沿いには、小笠原固有植物のハハジマノボタンやワダンノキ、シユスランなどを見ることが出来ます。また、希少動物のアカガシラカラスバトが少しずつ増えてきており、母島では、一般の方の確認情報も母島観光協会に寄せられています。餌としているシマホルトノキ等の実が落ちる時期には、南崎や乳房山の遊歩道を散策中にカラ

スバトに出会うことが出来るかも知れません。森林生態系保護地域内の利用にあたっては、指定ルート以外の区域に入ることを規制していますが、特に母島においては、希少な陸産貝類が、オガサワラビロウやタコノキの落ち葉の裏などに生息していますので、落ち葉などを踏むことのないようお願いいたします。今後とも、世界自然遺産の小笠原諸島の固有動植物や、森林生態系を維持していくために、林野庁、環境省、東京都、小笠原村の各関係機関が連携・協力して外来動植物種の駆除事業を行い、計画的な保全・管理を進めて参ります。



入港中のおがさわら丸



南島から見た千尋